



Researcher profile

教育学部
学校教育講座

准教授 春日 由美

令和2年度AI研究デザインプロジェクト

子育て支援の現状

AI × 子育て支援

研究内容

今回の研究では、乳幼児とその家族をサポートする「地域子育て支援拠点」を対象にしています。この支援拠点は、全国に約7,800か所以上あります（2021年度時点）。長いところは20年以上も続いており、これまで数多くの親子がこの支援の場を利用してきましたが、この支援拠点において、実際にどのようなことが起こっているかは十分に研究されていませんでした。今回の研究では、ある支援拠点の14年分の業務日誌を、AIを使って分析しました。大量の業務日誌の文章を、AIを用いて分析することで、日誌を書いている支援拠点のスタッフにも気づかないような特徴を見つけ出したいと考えました。

研究の成果

今回の分析の結果、支援拠点の様子は1年を通じて同じではなく、季節ごとに変化を見せること、スタッフは子どもとは楽しさを共有し、お母さんとは嬉しさを共有している可能性があること、スタッフがお父さんの育児を特別に考えている可能性があることなどが分かりました。いずれもスタッフの方も気づかなかったことばかりでした。今回、特に興味深かったのは、年齢も経験も異なるボランティアがそれぞれの持ち味を活かし、支援拠点にとってなくてはならない存在になっていることでした。

研究の可能性

心理学の研究は、調査や実験を行うことが多いのですが、その場合、ある程度研究者が結果を予測して行きます。今回の研究のように、大量のデータをAIによって分析する研究は、分析してみないとどんな結果が得られるか、そもそも結果が得られるかどうか全く分からない怖さがありますが、一方で当事者や研究者が予想もしなかった結果が得られる可能性や面白さがあります。これからは、ある程度研究者が予測を立てて行う研究と、予想がつかないAIを用いた研究の、良いところをつなぎ合わせながら、研究を行いたいと思っています。このようにAIを活用した研究を行うことで、私たちの世界をより良いものにする可能性のあるヒントが隠されているように感じています。